

D. 考察

今回の試行指示書により、短期入院化学療法にはクリティカルパスの導入が安全性、入院期間の短縮の両面で有効であることが示唆された。しかし、さらに安全性を確保し、患者満足度を高めるためには医師・看護婦のみならず、薬剤師の関与も不可欠と考える。今後薬剤師によるレジメンの管理（投与量やスケジュールのチェック）や薬剤指導（予測される副作用とその対策、前回治療の副作用を担当医にフィードバックする）等、さらに化学療法の質を高める努力が必要である。

E. 結論

多くの化学療法にはクリティカルパスの導入が可能である。それによって得られるメリットは医療者、患者にとって多大なものがある。今後さらに医療者間の連携を深めることにより、高い安全性と患者満足度を得られると期待される。